

第 63 号

発行

足利市大前町268-1

足利大学後援会

ご挨拶



後援会 会長

川崎 浩 司

足利大学後援会会員の皆様、益々ご健勝ことお慶び申し上げます。平素より後援会活動へのご協力厚く御礼申し上げます。

コロナの影響により卒業式、入学式、授業と変則的な開催のなか、後援会総会も書面での総会となり会長を仰せつかりました川崎でございます。二回目の会長職となり後援会理事として九年目となり、これからも後援会活動を円滑迅速に運営しより良い後援会にして

いきたいと思っております。初めに新型コロナウイルスの感染症対策として、文書により開催しました令和二年度後援会総会についてご報告いたします。全会員一三九一名中四一一名の会員の皆様から賛成票をいただき、みなし賛成数を合わせると全会員の皆様に賛成

していただきました。誠にありがとうございました。誠にありがとうございます。

さて、しかしながら昨年は豪雨災害によりわたらせ祭の中止となり、今年もこのコロナ問題の状況のためわたらせ祭が二年続けて中止となりました。誠に残念でなりません。

新入生の皆様、大学生活や環境には慣れてきましたでしょうか。私も本学の卒業生で入学当時まだ学園の周りは田園で正門からの並木も細かった事を思い出します。

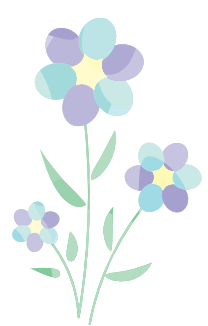
工学部に加え看護学部ができ工、看一丸となったグローバル大学となってきました。そして、リーマンショック、東日本大震災そして、今、コロナウイルス問題のなか、技術者・資格取得者のスキルを問われる社会経済環境となってきました。

ります。本学の「和」精神に基づいた技術、看護のスキルアップと誇りと信念、倫理観を持つ人材の養成に本学は努めております。後援会では学生達の学生生活をサポートする為の活動協力をしております。

例えば学生自治会活動・部活クラブ活動・各種資格試験・研究・研修・朝食や補助食の援助、通学のバスの購入等でございます。

是非とも保護者の皆様もコロナの影響により変則的なカリキュラムと変則的な授業体系でありますが、徹底したコロナ予防の対策をしております。これからも学校生活を快適に過ごせますよう後援会と致しまして後援サポートをさせていただきます。

ので、後援会活動へのご協力の程宜しくお願い致します。



後援会総会決議事項の賛否の集計結果

	会員数	賛成票	みなし賛成数	投票割合	反対票
機 械	214	54	160	25%	0
電 気 電 子	125	32	93	26%	0
システム情報	294	79	215	27%	0
建 築 ・ 土 木	408	110	298	27%	0
看 護 学 科	350	136	214	39%	0
小 計	1391	411	980	30%	0
合 計	1391		1391		0

足利大学後援会の皆様へ



学長
莊司 和男

後援会の皆様には、日頃より教育支援、就職支援に対する援助をはじめ、様々なご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

また、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により多大な影響を被っている在学生、そしてご家族の皆様にご心よりお見舞い申し上げます。

ご周知のように、コロナ禍により、新入生には大変申し訳ありませんでしたが今年度の入学式を中止と致しました。加えて、政府の緊急事態宣言、栃木県の緊急事態措置を受けて、学生の皆さんの健康と安全を最優先し、五月三十一日まで大学への入構を制限致しました。それに伴いWeb環境を整備し、LMSを活用した遠隔授業を開始致しました。現在も、皆さんの健康を第一に考え、3密を避けるため、実習科目以外は原則として遠隔授業を継続することとしております。今後ともご協力を

よろしくお願いいたします。以上の本学の対応は、何より自分自身がウイルスに罹患しない、他人に拡散しない、という基本原則を守るための処置であり、本学の建学の精神である「和」の精神、そして「利他」の精神に基づくものとご理解いただければ幸いです。

コロナ禍の影響は学内活動にとどまらず、栃木県内の十大大学で構成する大学コンソーシアムとちぎの「学生&企業研究発表会」を代表とする多くのイベント、本学独自の海外留学プログラムなども中止となっております。しかし、現在、各部署においてコロナ禍対応の代替案を模索しております。新たな取り組みも始まりますので学生の皆さんの積極的な参加を期待します。

ところで、本学は今年度、外部認証評価を受診しますが、審査項目の中に建物の耐震実施状況があります。令和五年

までに建物の耐震化率を100%とする努力をしているところですが、その一環としてこの七月より大前キャンパスの体育館の耐震改築工事（機械実験棟の南側に新築）を開始いたしました。令和三年の三月に竣工、外構工事等を考慮し七月から供用開始の予定ですが、大前キャンパスの雰囲気も大きく変わることと思

います。最後に、本学園の建学の精神は「和」の精神であり、①和をなによりも大切なものとして、争わないようにすること、②わだかまりなく話し合うこと、③大事なことは一人で決

めず、みんなで議論して決めること、といったことが含まれています。在学生の皆さんには、「和」の精神のもと、皆が一丸となって今までに経験したことのないこの大変なコロナ禍の状況を乗り越え、自身の成長に役立ててほしいと切に願っております。

新型コロナウイルスの感染拡大と本学の動向



副学長兼工学部長
末 武 義 崇

後援会の皆さまには、日頃より本学の教育・研究に関するご理解とご協力を賜り、心より御礼を申し上げます。また、新型コロナウイルスの感染拡大によって、多くの方々

が不自由な毎日を過ごされていることと思えます。お見舞いを申し上げます。本学も予定していた姉妹校への訪問団・短期留学生派遣中止を決

定するなど、二月初旬から直接的な影響を受けることになりました。

その後三月に入り、感染の拡大傾向が徐々に明らかになる中で、卒業式の縮小開催、入学式中止を判断せざるを得なくなりました。学生生活の大きな節目となる行事の変更

に、学生諸君に対してはもちろんのこと、卒業式・入学式

を心待ちにされていた保護者の皆さまに對しても申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。三月中旬から四月にかけては、国内の感染状況も急拡大の様相を呈し、令和二年度の学事日程の変更と共に、遠隔授業導入の検討を始めました。当初は、授業の開始を一週間程度遅らせ、3密を避け

し上げたいと思います。また、学生・保護者の皆さまのご協力のお蔭で、当初心配されたWebへのアクセス不良の問題はほとんど起こらず、全体的には極めて順調に遠隔授業をスタートさせることができました。有難うございました。現在、これまでの遠隔授業を評価するために、学生・教員に対するアンケート調査を行っているところです。結果を踏まえ、今後の授業改善に役立てて参ります。

一方で、教科書の販売については学生の皆さんへの配送が遅れてしまい、ご心配・ご不便をおかけしました。これは、大学生協の不手際ではなく、履修登録の期限が連休直前に設定されていたことに起因しており、工学部長として配慮が足りなかったことを反省しております。申し訳ありませんでした。

五月二十五日の緊急事態宣言解除を受け、六月からは卒業・修論のゼミ、実験・実習など、一部の授業については感染拡大防止に配慮しつつ学生の入構を許可して進めているところですが、「学びの支援緊急給付金事業」についても、第一段階の申請作業を終え、現在は第二段階の推薦者名簿のとりまとめに移っているところで

す。六月後半から感染者数が再び増加傾向に転じ、まだまだ予断を許さない状況が続いております。不透明な状況の中、手探りの学校運営を余儀なくされておりますが、本学

教職員一同、一丸となってコロナ禍に対処すべく日々努力を積み重ねております。

今後とも、後援会の皆さまのご理解とご協力を、宜しくお願い申し上げます。

遠隔授業の現状と今後の課題



工学部教務委員長

長尾 昌 朋

昨年度末から拡大した新型コロナウイルス感染症の影響により、授業日程がなかなか確定せず、皆様にはご心配をおかけしました。学修支援システムを導入して遠隔授業を始めましたが、初めての学修環境でも勉学の姿勢を示した学生諸君とそれを支えている保護者の皆様に心から感謝いたします。

遠隔授業は教員にとっても初めてです。そこで、今回の対応を今後の授業運営に活かすため、学生および教員に対して遠隔授業に関するアンケートを行いました。この場を借りて、工学部に関する内容を速報的に紹介します。

遠隔授業への出席について、

六割の学生は全ての授業を視聴、残りの学生も授業の八割程度を視聴しています。慣れない遠隔授業の中、懸命に授業に取り組んでいます。

遠隔授業そのものについて、映像や資料の見やすさ、音声の聞きやすさ、閲覧時間、教員の回答状況について質問しました。六割の学生がほとんどの授業を適切、残りの学生も半分の授業を適切としていました。概ね満足のようなのですが、学生が不十分と感じている授業もありますので、改善の余地があります。

遠隔授業での課題について、六割の学生は課題が多いと感じていました。教員へのアンケートからも課題を増やした

との回答が多く、学生の理解度を確認するためと思います。全体的に課題量を調整する必要性を感じています。

学生の視聴環境は、八割を超える学生がパソコン、残りスマートフォンでした。通信環境は、ほとんどの学生が固定回線の利用でした。容量制限のあるモバイル回線のみならず、学生の数も多いため、対応が必要と見えます。

また、かなりの学生が体調不良や集中力の低下を訴えています。この点はお家庭での補助があると助かります。授業での疑問解決にも不満を抱えているようなので、教員側の対応が必要と見えます。

学生が実感した遠隔授業の利点は、いつでも繰り返し授業を復習できることです。関連して、公開期間の短い科目

目への不満が自由意見にあり、改善項目と考えられます。

一方、教員へのアンケートからは、教員の苦勞がうかがわれます。通常授業に比べて追加資料が必要となり、作成のための作業や時間が増えたそうです。教員が感じる遠隔授業の利点は、対応の良い学生には細やかな個別指導ができることです。しかし、全体的には、学生の状況把握が困難で指導が難しいと感じています。学生が心配だが、気軽に相談にのれないとの意見もありました。

後期も遠隔授業が主体となります。アンケート結果を参考に、より良い学修環境を整備したいと思っております。

今後とも、工学部教務委員会の活動にご理解とご協力をお願いいたします。

学生指導・支援の取り組み



工学部学生指導委員長

櫻井 康 雄

後援会の皆様のご支援に心より御礼申し上げます。

本学のモットーは「一人ひとりを大切に育てる」ことで、工学部学生指導委員会は、学生生活の面からこれを実現

するよう努力しております。通常であれば、年2回の教育相談会の実施、就学支援と指導、カウンセリング、健康管理、クラブ活動のサポート、大学祭や球技大会などの活性化支援、特待生選考、留学生への経済支援を学生支援課と協力して実施しております。

新型コロナウイルス感染拡大により、講義はWebでの実施、実習が必要な講義のみ六月五日から対面で実施というスタイルで前期の講義が進んでいる中で、本委員会が担当する種々の活動や行事が実施できなくなっているのが現状です。このような状況下で本委員会が傾注しているのが、学内における感染防止対策です。入構する学生には検温を実施し、マスクを持っていない学生にはマスクの配布を行っています。対面授業終了後には教員が学生と共に教室および実験の消毒を行います。これに必要な消毒作業用品（手指消毒用アルコール、アルコールスプレー、ウエス、ポリエチレン手袋、ゴミ袋）の準備・点検を実施しております。食堂においては一方を向いて食べてもらうため、座席の配置の変更および注意書きの掲示を実施しております。

す。また「学びの継続」のための学生支援緊急給付金の募集および推薦者の選出も行っております。これらのことは学生支援課が主体で実施しております。

工学部は個別履修プログラムという制度があり、前期および後期の開始時に単位取得状況に基づき教員が学生一人ひとりと相談しながら受講すべき講義科目をアドバイスします。これを担当した教員が学生の講義出席状況を出欠管理システムによって一週間に一〜二回確認します。出席率が七割を割りそうな学生や特定の科目を連続して欠席している学生に連絡を取り、事情を聞きアドバイスをします。現在のWeb授業においても出欠管理はできるため、本委員会ではこのような学生へのアドバイスが担当教員から遅滞なくできるよう注意を払っております。

を実施する際に必要であれば保護者の方に連絡し就学状況を話し合う機会を設けようと考えております。なお、年度末の三月にも教育相談会を実施しております。この教育相談会は、電話で教員とお話いただく形式での実施を考えて

おります。学生指導委員会は、学生支援課、保健室などとの強い連携のもと、学内における新型コロナウイルスの感染防止を第一の目標として全力で活動してまいります。ご理解とご協力をお願いいたします。

コロナ禍における就職支援の現状



工学部就職指導委員長

横山 和哉

後援会の皆様には、日頃より本学学生の就職支援に関する様々なご支援を賜り、心よりお礼申し上げます。昨年度の内定率は、工学部九八・九％（就職者数一八八名／就職希望者一八八名）、大学院修士課程九一・七％（一名／二名）、看護学部一〇〇％（八名／八二名）となりました。このように高い就職率を達成しましたのも、後援会の皆様のご支援あつてのもの、重ねて感謝申し上げます。

新型コロナウイルスや新聞等では企業の採用停止や内定取り消し等が放送・報道されています。二〇二二年三月卒業の学生にとって就職活動の重要な時期であった二月以降、企業の説明会等が軒並み中止されてしまいました。本学でも毎年三月に開催されております学内企業セミナーが中止となり、学生が企業と面談できる貴重な機会がなくなりました。緊急事態宣言下で、学生は思うように就職活動ができず、大きな不安を持ったことと思

就職課ではメールを使って就職情報等を発信し、学生の就職へのモチベーションが低下しないように、また不安を少しでも緩和するように対応しました。緊急事態宣言が解除され、就職活動もWEBを使った説明会や試験が再開されました。本学では六月から入構禁止が一部緩和され、人数制限、面談の予約、マスク着用、消毒の徹底などのコロナ対策を行い、対面での就職相談を再開しました。前期は基本的に遠隔授業となつているため、キャリア科目である「自己表現I」もWEB授業により開講されています。昨年同様、大手就職支援企業の方に講師を依頼し、毎回オンデマンドで授業を行い、自己分析やエントリーシートへの書き方、適性検査の対策など、小テストを交えて進めていただいております。さらに、三年生向けの就職ガイダンスだけでなく、二年生向けのキャリア講座もWEBにおいて再開しています。毎年夏季休暇中に実施しておりますインターンシップにつきましても、近隣の企業において実施されることになり、できるところから就職支援を再開

している状況です。

毎年十月と十一月に東京及び足利で就職情報交換会を実施しておりますが、本年はWEB会議ツールを使っての実施を予定しております。コロナ禍におきましても、企業様とのつながりを大切にし、今年よりもさらに心配される次年度の就職に向けて情報交換を行いたいと考えております。

このような状況下でも、八月二十日現在で、工学部一三一社五二九三人、大学院八八六社一七〇六人の求人をお願いいただき、五〇・八%内定率と

なっております。

看護学部におきましては、二月中に二年生向けのインターンシップガイダンス、三年生向けの実習病院就職説明会が実施され、また教職員の指導もあり、八月二十日現在で一七三社八七八〇人の求人をお願いいただき、七二・三%の内定率となっております。

学生が希望の就職ができるように、本人、教職員、後援会の皆様が連携していきたいと思っております。引き続き、ご支援よろしくお願い申し上げます。

看護学部開設7年目の今



看護学部長

杉原 喜代美

後援会の皆様におかれましては、平素大変ご支援を賜り深く感謝申し上げます。

看護学部開設七年目の本年度四月に看護学部長に就任いたしました杉原です。ご挨拶させていただきます。

山門前学部長が「人を看護するのは、人でなければなりません。」という精神のもと教

しました。以前同校に六年間

お世話になつていた経緯もありますが、短大から大学に改組転換するため、平成二十四年足利工業大学看護学部（現足利大学看護学部）開設準備室に準備委員として加えていただきました。令和四（二〇二二）年度には保健師助産師看護師指定規則第五次カリキュラム改正が予定されています。現在のカリキュラムに続き、新カリキュラム編成に参画できるのは本当に光栄であると考えております。一層精進して看護基礎教育に携わっていききたいと思います。

さて、自己紹介が長くなりましたが、四月から現在までの看護学部の経過をご報告いたします。今春、まさに新型コロナウイルス感染症が拡大しつつある状況でした。本学は三月に学校法人足利大学新型コロナウイルス感染症対策本部を設置しており、その対策方針に従い入学式は中止となり、新入生ガイダンスも時間短縮、授業開始も延期となりました。

さらに緊急事態宣言後大学への入校が制限され、①入校時のサーモグラフィによる体温チェックを初めとした健康調査、②手指消毒や学内の消毒の徹底、③カフェやエレベーターの利用者数制限等の3密を避ける措置が本城キャンパス内でとられました。このような感染防止対策を行いつつ、大学は五月には対面での面接授業ではなく遠隔授業（オンライン授業）をmanaba（日本の多くの教育機関に採用されているクラウド型の授業支援システム）で行うことになりました。遠隔授業の開始に伴い、四月中教職員はその準備に追われました。学長の庄司先生、副学長の末武先生、工学部の先生方、教務課のサポートもあり看護学部の教員は研修会を開催しmanabaの修得に日夜邁進しました。この時工

タールの利用者数制限等の3密

を避ける措置が本城キャンパス内でとられました。このような感染防止対策を行いつつ、大学は五月には対面での面接授業ではなく遠隔授業（オンライン授業）をmanaba（日本の多くの教育機関に採用されているクラウド型の授業支援システム）で行うことになりました。

遠隔授業の開始に伴い、四月中教職員はその準備に追われました。学長の庄司先生、副学長の末武先生、工学部の先生方、教務課のサポートもあり看護学部の教員は研修会を開催しmanabaの修得に日夜邁進しました。この時工

学の部のある大学でよかったとつくづく思いました。そして、学内が静かな早朝や夜遅く先生方の研究室から「声」が聞こえる日が続きました。それは、授業教材となる動画作成時における説明のための録音作業でありました。教員は模索しながらも全力を尽くしていましたが、学生にも助けられました。作成した教材がオンラインで学生のもとに届いているのだろうかと不安になり、何回も教材を作り直している」と情報機器の扱いは学生のほうが慣れていて、「先生、

大丈夫だからそんなに録音を

何度も修正しなくてもいい、チャイムの音や踏切の音が入っている、猫が鳴いている音が構わないから」と言ってくれ安心したこともありました。

この数か月学生、保護者の皆様におかれましてはご心配の日々を過ごされたと推察できます。私たち教員も授業教材を準備しながら、在学生のことを思わない日はありませんでした。特に一年生は新入生ガイダンスで登校したただけでしたので、どれほど不安であつたか想像に難くありません。やっと六月にホームルームをかねて基礎ゼミナールという前期授業科目をZoomで

開催することが可能になり、画面いっぱい的一年生九十二名の顔を小さいながらも目にした時にはさすがに感動しました。初年次教育の一環として設定した基礎ゼミナールという科目を通して、アドバイザーを兼ねているゼミ担当教員と学生の連絡が取れていることは幸いでした。本学部は一年生のみならず全学年においてグループアドバイザー制をとっています。一年生以外の学年もアドバイザー教員を通して学生の様子がわかるこ

とは特にこのような非常事態時には貴重なライン（絆）であったといえます。

看護学部は、教務委員会、学生指導委員会、国家試験対策委員会、臨地実習委員会、就職指導委員会等の委員会活動が中心となります。それぞれの委員会には、教職員が配置され、委員会委員長をリーダーとして担当する職務を遂行しています。コロナ禍の厳しい時ではありますが、学生への経済的支援（学びの継続のための学生支援緊急給付金、和田奨学金他）も考える一方、大学として役割を遂行できるように学内専用掲示板(Active Academy)、manaba、Zoomのオンライン等を駆使して今できる精一杯の対応をしています。

「必要な単位もしくは時間(実習が中止の場合、当該学校養成所等において実習に替わり得る学修として各学校養成所等で配当した単位もしくは時間を含む)を履修し、又は当該学校養成所等に必要な単位もしくは時間(実習が中止の場合、当該学校養成所等において実習に替わり得る学修として各学校養成所等で配当した単位もしくは時間を含む)を履修して卒業(修了)した者については、従来どおり、各医療関係職種等の国家試験の受験資格が認められる」とあります。本学はこれらを指針として、教務委員会(沼田教務委員長)では、時間割の変更、インターネット等を活用した学修、レポート課題の実施等により必要な教育が行われるよう、非常勤講師との調整もはかり特段の対応をしてきました。

学生指導委員会(豊島学生指導委員長)では、学生生活全般にわたり前述したホームルームなど学生への連絡調整に努めております。また、アドバイザー教員やクラス担任と連絡をとり学生支援につなげています。

臨地実習委員会(佐藤臨地実習委員長)は、社会情勢を

鑑み実習施設との調整、学修形態の変更など綿密な学修計画をたて活動しています。臨地実習は看護基礎教育では特に重要な授業形態です。しかしながら困難な場合は学内実習などに替えて必要な知識・技術を修得できるように対応しております。実習施設で実習が可能となった場合でも実習施設と十分に調整し必要な感染予防策を講じ、可能な限り学修の機会を設けていきます

が、実習施設の状態も考え実習内容を精選していきます。看護実践の場以外の多様な場における支援などの活動も弾力的に時間数に加えていく、あるいは臨地に滞在する時間が短縮する可能性もあります。時間が関係なく学修目標が達成できるような学修方法を今後も工夫したいと考えています。

七月末になってようやく前期の授業が終盤になってきました。振り返ると学生はよく頑張ったと思います。新型コロナウイルス感染症の終息を願う毎日ですが、何があっても無事に国家試験受験、卒業までサポートしていかなければならないと教職員一同改めて気持ちを引き締めています。さて、今“Nursing

Now!”この言葉が世界で広がっています。

“Nursing Now!”は、令和二(二〇二〇)年が近代看護を築いた看護師のフロレンス・ナイチンゲールの生誕二〇〇年であることを記念して、看護職への関心を深め、社会への貢献の最大化を目指す、世界的に実施されているキャンペーンです。実現はしませんでした。本学も五月一日に「看護の日」として特別講演や記念イベントを予定していました。

ナイチンゲールは、「看護覚え書き」という有名な著書を残しています。その中で、人間は生まれつき「生命力」をもっている。看護とは、「生命力」を高めるように環境を整えて自然治癒力を高めることが大切である。・・と言っています。今、コロナ禍の中、医療関係者の心ある行動や命と向き合う映像をみなさん目にされたと思います。改めてナイチンゲールの提唱したことが大変重要な意味を持つていることがわかります。そして、看護の力が改めて注目される時代に看護に関心を持っていただき、足利大学で皆様に会えたことは大変意味のあることだと考えています。

最後にありますが、学生の健康を第一に考え、本学関係者が一連の措置をとってまいりましたことを、ご理解いただきまして、厚くお礼申し上げます。

これからも足利大学は学生に安心・安全な環境を整えることに努め、教育の質を担保し、大学の使命を果たす覚悟でございます。教職員一丸となり務めてまいりますので後援会の皆様方におかれましては是非ご協力のほどよろしくお願いいたします。

引用文献
 一) 令和二年六月一日付 文部科学省、厚生労働省：「新型コロナウイルス感染症に伴う医療関係職種等の各学校、養成所及び要請施設などの対応について」
 二) 令和二年六月二十二日付 厚生労働省医政局看護課：「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う看護師等養成所における臨地実習の取り扱い等について」



＋ 足利大学の新型コロナウイルス感染症対策 ＋

足利大学では、日本国内での新型コロナウイルス感染症の発生以来、国や県の要請を受け様々な感染症対策を行っております。令和2年度においては4月当初の行事を中止又は規模の縮小や実施形態を変更し、授業開始日については5月11日からインターネットを利用した遠隔授業を開始し、対面授業は5月31日までの入構禁止期間の後とすることといたしました。6月1日から「新しい生活様式」に基づき大学を再開しております。入構者にはマスク着用や検温所での体温チェックを義務付け、施設によっては現在も使用を制限しておりますが、授業は遠隔授業と対面授業を組み合わせ実施しております。令和2年度後期につきましても、遠隔授業と対面授業を組み合わせ授業を実施いたします。状況が日々変化するなかで学生の皆さんにはご不便をおかけしていますが、足利大学では、学生の皆さんが来校して学修できるよう、図書館や学生ホール、PC教室を開放しています。これからも学生の皆さんの学びの継続のため支援を続けて参りますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

学事日程の変更

- ◎授業開始日の変更
- ◎夏季休業期間の短縮
- ◎各イベントの中止や規模縮小
 - 学位授与式、入学式、大学祭、フレッシュマンキャンプ、定期学生総会、後援会海外研修旅行
- ◎インターネットを活用した方法による行事の実施
 - 教育相談会、保護者説明会、オープンキャンパス

遠隔授業の実施（オンデマンド型、リアルタイム型）

対面授業も並行して実施
（＋ハイブリッド型）

- ◎授業管理システム（LMS）の導入
- ◎学生ポータルサイトによる情報発信
- ◎学外からの履修登録
- ◎各キャンパスに遠隔授業用スタジオを設置



キャンパス内の感染症防止対策

- ◎ソーシャルディスタンスを確保し施設再開（図書館・学生食堂）
- ◎検温所の開設
- ◎定期的な身の回りの消毒
- ◎エレベーターの利用人数制限
- ◎日常の体調管理（健康調査表の記録）
- ◎マスクの着用
- ◎対面授業実施の工夫
 - 密集を避ける時間割へ再編成
 - 教室の使用基準策定（定員の1/2以下、50人以下）
- ◎学外者への施設貸出禁止



学生の「学びの継続」への支援

- ◎学費納付期限の延長
- ◎学生支援緊急給付金の手続支援
- ◎学校法人足利大学和田奨学金の拡充（10万円の緊急貸与）
- ◎相談窓口（学費納入、就職活動、カウンセリング）の強化

監修：学校法人足利大学新型コロナウイルス対策本部



会員の皆様へ



学生生活や授業のことなど遠慮なくご相談願います。

前期は、新型コロナウイルス感染症感染防止のため、遠隔授業を中心に行っており、多くの学生は大学に登校できない状況が続いていました。そのような状況で学生の皆さんやご家族の方々も授業や大学生活に不安を感じることもたくさんあると思います。特に1年生は、学生生活を体験できないまま、自粛生活を強いられているのではないのでしょうか。

しかし本学では両キャンパスで検温所を設置しコロナの感染対策を行った上で、対面授業を実施しています。大前キャンパスでは図書館や情報科学センター、学生ホールで自習することができます。本城キャンパスでは5階図書室、2・4階の学生ホールで自習することができます。両キャンパスでは食堂も営業しており、スクールバスも運行しています。本学では感染予防を図りながら開かれたキャンパスを目指しております。

工学部では、例年行っている夏の教育相談会が、新型コロナウイルスの感染症対策のため、中止となりましたが、電話でのご相談を受付けております。遠慮なく電話やメールで相談願います。

大前キャンパス（工学部）

学生生活（体調不良・不安な事）などの相談先

学生支援課：0284-62-0950

gakusei@ashitech.ac.jp

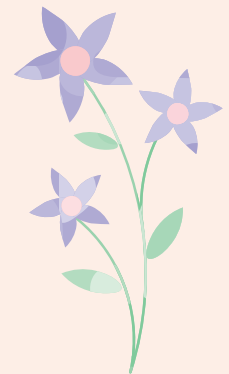
授業（試験・レポート・manaba）などの相談先

教務課：0284-22-5733

本城キャンパス（看護学部）

看護学部生に関する学生生活・授業等の相談先

5階事務室：0284-22-7184



事務局便り

二十一世紀・令和改元を迎え大学の課外活動は、学生自治会総会・体育部門委員会による球技大会等が運営され、各クラブ、留学生、有志グループ等が熱戦を交え、スポーツを通じて交流が図られ、授業では味わえない親睦が生まれました。

わたらせ祭実行委員会は四月に新入生を迎え、十月開催の令和元年第五十一回わたらせ祭を企画し、参加団体の調整・アーティストの選定からチケット販売・地域の皆様の接待等準備を計画的に進めておりましたが、開催前夜『台風十九号』の猛威に襲われ、急遽学園祭の中止を判断し、翌朝から開催中止の連絡・後処理と同時に、足利市・佐野市・栃木市と被災された方々の災害復旧支援・ボランティア活動へと、実行委員の学生諸君が中心となり、休校期間中活動を継続しました。学園祭中止の「打ち上げ」の折は、学園祭で味わえない、貴重な体験で充実した期間を過ごしたと話してくれました。

令和二年には、新型コロナウイルス感染症が拡大し、サークル活動の中で考え、行動し、仲間達と夢を語り合うことが制限されました。大学が閉鎖となり、『命を守る』ためにサークル活動の自粛を強いられ、身近な学園生活をはじめ、世界の情勢が、コロナ新時代に突入してしまいました。

事務局も、所轄官庁の指導のもと、コロナ対策本部を中心に『学生の命』『関係者の命』を危険に晒さないよう対策を講じて参りました。特に大学は広範囲から多くの学生・教職員が集まり、一コマの時間が長いため密集時間が長く、深夜バイトによる感染リスクの高い学生もいます。他方パソコンのスキルも高いため、小・中・高校とは異なり遠隔授業を選択せざるを得ない状況です。

後援会会員の皆様には、この現状の中新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドラインに則した本学の対応に、ご協力いただき感謝申し上げます。新型コロナウイルス感染症拡大予防の『生命を守る』『新しい生活様式・新しい時代を会員各位のご協力を頂戴し、学生とともに新しい学園生活を築いて参ります。』